

共生

奈良県生協連

2015年7月

NO.97

万葉のいぶきを求めて—(62)



平城京夏草

立ちかはり 古き都と なりぬれば 道の芝草^{しばくさ} 長く^お生ひにけり
田^た 辺^{なべの} 福^{さき} 磨^{まろ}

天平12(740)年、聖武天皇は30年にわたって続いた平城京を後に、京都の恭仁京へと遷都しました。政権の掌握を図る藤原氏と、古くからの豪族層との葛藤は政局の混迷を深めていました。そうした情勢からの脱却を目指した遷都の選択だったのでしょうか。天平17(745)年、再び平城に都が戻る5年の間に、平城京は廃墟となっていたようです。「時が流れ、栄えていた都も旧都となってしまう、道の芝草も道を覆い隠すほどに長く伸びてしまったよ」たった5年で都の様子がすっかり変りはてた事を悲しんでいます。続いて784年、都は京都長岡へと遷ります。これを最後に再び都は平城に戻る事はありませんでした。やがて都は水田の下に没してしまいます。かくして、万葉の時代は終わりを告げました。しかし、3世紀余にわたって歌い継がれて来た万葉の心は消え去ることはありませんでした。時と共に新しく、高らかに歌い継がれていくのです。

第26期 奈良県生協連通常総会

2015年6月20日(土) 奈良ロイヤルホテル

奈良県生協連は6月20日奈良ロイヤルホテルにて第26期通常総会を開催し、102名が参加し2014年度まとめと2015年度事業計画等、全議案を全会一致で確認しました。行政・諸団体から多数のご臨席があり、総会終了後は新年度のスタートを祝い、懇親会を催しました。

承認された議案

- 第1号議案：2014年度事業報告・決算関係書類承認の件
- 第2号議案：2015年度事業計画及び予算案決定の件
- 第3号議案：役員選任の件
- 第4号議案：役員報酬の件
- 第5号議案：議案決議効力発生の件



瀧川会長

瀧川会長 挨拶

生協は社会状況の変化に応じて組合員の声を活かした取り組みをしています。格差の広がりや平和の問題など、市民のくらしをめぐる昨今の状況は厳しいものがありますが、資本やお金中心の世の中ではなく人間の暮らしを中心にした世の中へと、流れを変えていけるように今年も皆様方のご協力を得ながら生協運動をすすめてまいります。



奈良県姫野課長

来賓ご祝辞

ご来賓を代表して姫野隆昭奈良県消費・生活安全課課長、及び田中俊雄奈良県森林組合連合会代表理事専務から、生協活動への期待などそれぞれ心のこもったご祝辞を頂戴しました。



森林組合連合会 田中専務

ご臨席いただいた来賓の皆様

※順不同

- 奈良県くらし創造部消費・生活安全課長 姫野 隆昭様
- 同主事 井阪 素也様
- 奈良県森林組合連合会代表理事専務 田中 俊雄様
- 奈良県消費生活センター所長 谷 守浩様
- 日本生協連関西地連事務局 元山 鉄朗様
- 近畿労働金庫地域共生推進室長 浦田 和久様
- なら消費者ねっと代表 北條 正崇様
- 奈良県地域婦人団体連絡協議会会長 中島 祐子様



議長 紙森美保さん



アピール提案する 山原 縁さん

第26期通常総会アピール

終戦・被爆70年にあたる今総会では、NPT再検討会議への代表派遣の取り組みや安全保障法制問題などの社会状況を踏まえ、平和に関する総会アピール『平和とよりよい生活のために「戦争に参加できる国」への転換には反対します』を提案し拍手で承認されました。

NPT再検討会議代表派遣報告

奈良県生協連の代表として生協代表団に参加した奈良教育大学の村上泰三さんがスライド映像を交えながらニューヨークでの活動報告を行いました。



寄せられたメッセージ・祝電…59通

県内協同組合及び関係諸団体
全国の生協、生協連の皆様
～ありがとうございました～

もくじ

第26期奈良県生協連通常総会 ……1
 会員生協からの活動報告 ……3
 NPT再検討会議 ……5
 環境のページ ……7
 おじゃましました・生活クラブ生協の巻…8

生協・行政協議会を開催 ……9
 なら消費者ねっと総会 ……9
 3・11を忘れない みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします ……10

お世話になりました & よろしくお願ひします

退任される
理事・監事



今期で退任の理事
前田 陽一さん
(生活協同組合コープ自然派奈良)

新任の
理事・監事



新任理事
柏原 勇介さん
(生活協同組合コープ自然派奈良)



今期で退任の理事
崎濱 誠さん
(奈良教育大学生生活協同組合)



今期で退任の監事
田村 俊文さん
(市民生活協同組合ならコープ)



新任理事
山原 縁さん
(奈良工業高等専門学校生活協同組合)



新任監事
吉川 英子さん
(市民生活協同組合ならコープ)

2015年度役員体制

役職	氏名	所属
会長	瀧川 潔	員外(市民生活協同組合ならコープ)
副会長	野崎 敏明	奈良県労働者共済生活協同組合
専務理事	辻 由子	市民生活協同組合ならコープ
理事	粟村 俊夫	奈良県立大学生生活協同組合
理事	石間 奈穂子	奈良教育大学生生活協同組合
理事	柏原 勇介	生活協同組合コープ自然派奈良
理事	加藤 由美	奈良女子大学生生活協同組合
理事	立石 昭彦	生活クラブ生活協同組合
理事	仲宗根 迪子	奈良県医療福祉生活協同組合
理事	中野 素子	市民生活協同組合ならコープ
理事	森 宏之	市民生活協同組合ならコープ
理事	山原 縁	奈良工業高等専門学校生活協同組合
監事	稲津 和之	奈良県労働者共済生活協同組合
監事	吉川 英子	市民生活協同組合ならコープ

奈良県生協連 2015年度の 重点課題

- (1) 協同組合運動の理念を広げ、よりよい明日のために協同の心が息づく取り組みをすすめます
- (2) 社会的諸課題に関心を持ち主体的に行動する消費者を増やし、消費者市民社会の形成に寄与します
- (3) 終戦・被爆70年を節目に平和と核兵器廃絶の運動をつよめます
- (4) 会員の活動支援と連帯を強めます



近畿労働金庫
浦田室長



～ 交流を深めた懇親会 ～

★懇親会の冒頭に、ご来賓の近畿労働金庫地域共生推進室の浦田室長に協同と連帯を深めるご挨拶をいただきました。またご参加の来賓の皆様それぞれにお話をいただき、協同組合や協同セクター、諸団体の方々と情報交換もすすみました。



会員生協のコーナー (奈良県労済生協の皆さん)

★今年とはとくに大学生協からの参加が多く会場が大変にぎわいました。世代や取り組み分野の違いを超えた交流の機会となり、また恒例の会員生協のコーナーではたのしい発表がつづきお互いの活動の様子を知ることができました。

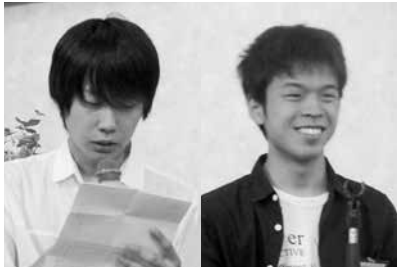
会員生協からの活動報告

奈良県労働者共済生活協同組合 吉成 彰一さん



家の保証から生命・医療・年金・介護・車を保証する組織です。火災共済は60周年を迎え、2015年2月より「住まいる共済」として生まれ変わり告知宣伝活動を強化。加入件数、口数ともに増加しました。3生協でも推進担当者向けに制度内容や建物構造区分の方法などの学習会を実施しました。「住まいる共済」発売を迎え、記念セミナーとして防災・減災にむけた講演会を開催しました。また、女性を対象とした「女性のための年金セミナー」を開催しました。来店いただけないお客様との接点を増やすため金融機関の支店イベントや大型スーパーでの移動相談窓口を実施しました。

奈良工業高等専門学校生活協同組合 黒田 晃平さん・西尾 啓さん



新入生歓迎を学生会執行部と合同で行いました。春と秋には自転車点検を行い、秋には〇×クイズを行いました。通常総会では分科会で毎年食堂班と購買班に分かれて、参加者である学生からの様々な日々の利用について意見、要望をいただいています。昨年台風の影響で2日間みの開催となった「かき氷」企画、学生の健康促進企画「食生活相談会」には39名の参加があり栄養士の方から食生活に対して様々な指摘をいただきました。「タヌロー喫茶」ではケーキとプリンタルト500

個を超える提供ができ大成功となりました。それぞれの企画利用者が増加したのは、奈良高専生協全体の日々の活動の成果だと思います。この生協利用増加傾向を次の代へもつないで行ってもらいたいと思います。

奈良県立大学生生活協同組合 藤森 友梨さん



「みんなで作ろうみんなの生協」という方針のもと①組合員の声に素早く対応を示す。②受験生、新入生や保護者の求めている情報を的確に伝える。③在学生の大学生活を充実させるためのサポートを広める。④大学や学内諸団体との連携により学生委員活動を展開する。以上4つの方針を立て活動しました。その中の1つ「ありがとう抽選会」は2013年当期剰余金の約1/3(30万円)を組合員に還元することが総会で決まり理事会や学生委員会で話し合い企画を進めていきました。この企画を通して購買・食堂の利用が伸び組合員の生協利用促進につながり、嬉しそうに企画に参加する

組合員の姿を見ることができました。今後組合員の利用、参加で生協が良くなることを発信していきたいと思いました。

奈良教育大学生生活協同組合 笹井 由さん



次の新たな3つの試みを行いました。①組合員の今を知り、これからの考え行動します。②一人の組合員として自分たちの生協をよりよくしていきます。③組合員の意見・要望を実現します。

5月は新生活相談会や自転車無料点検などを企画し、総代会で「営業時間を延ばしてほしい」という意見があり利用動向を調査し1時間営業時間を延ばしました。組合員の経験や意見を反映させるコトモノ提案をもとに大学生生活説明会で商品を提案しました。また上回生委員会を発足し新入生により良い学生生活を送ってほしいと「ビジョンナビゲーションセミナー」を開催しました。組合員の生活を基にした生協運営を実行していく基盤となる一年になりました。

奈良女子大学生生活協同組合 内海 理佳子さん

学生委員会 WINDY は入学式の前に友達作りをしてもらうことで新入生の不安が少しでも取り除けたらと「エントランスイブ」を4月3日に開催しました。学年、学部に分かれてゲームなどした企画でした。人気の企画となった「ビジョンナビセミナー」を4月5日に開催、充実した大学生活を送ってもらうために、グループ内の仲を深めたのち、講師の坂元晶子先生から、高校と大学の違いについての講義を聞き、学生委員数名によるパワーポイントセッションやグループ内でのフリートークなどを行いました。最後には将来どんな自分になりたいかを考え、大学4年間の計画をたてました。



生活協同組合コープ自然派奈良 寒川 麻利子さん

2014年は「しあわせつなごう、いのちのごはん」をテーマに実行委員会を立ち上げ、5月には料理研究家の辰巳芳子さんの記録映画「天のしずく」、また料理研究家の梅崎和子さんの講演会、長年ヨーロッパで薬膳を広める活動をされているオオニシ恭子さんを講師にお招きした3回連続講座を開催し250名を超える参加がありました。また、県内の生産者訪問を実施「自然派オープンキャンパス」では21生産者34回の商品学習会を開催しました。大和ひみこ米の取り組みは6年目を迎えました。新センターでの「みんなでkite mite ほっとカフェ」を開催するなど活動が進みました。



奈良県医療福祉生活協同組合 堀脇 純子さん

誕生して3年目を迎え、健康予防・検診・健康づくりの活動が広がってきました。保健予防・健診推進運動では特定健診・がん検診を支援団体の役職員健診のべ842人となりました。インフルエンザの予防接種、日曜日の診療と健診を実施、小児科は月1回第4土曜日の午後に集中させました。積立増資「こつこつ増資」は174人に増え、健康チェックと健康講座は93回2085人となりました。健康づくり活動を地域に広げる組合員活動委員会、また広報委員会では年4回機関紙「すこやか」を発行しています。誰もが等しく、住み慣れた地域で健やかに暮らしたいという願いをかなえるために一歩ずつ歩みを進めていきます。



生活クラブ生活協同組合 甲斐 京子さん

「食」を通じた取り組みを中心に活動をすすめてきました。生活クラブ全体の取り組みの一つに「食品添加物運動」があります。生産から廃棄まですべての過程においてできるだけ添加物を減らす運動をしています。10年以上交流の続いている「伊賀有機感謝祭」は三重県伊賀市で11月下旬の土曜日に子どもたちが土に触れ、小動物と戯れる貴重な体験となりました。また14の生産者を巻き込んだ「青空大試食会」は、職員の声掛けもあり多くの組合員が参加されました。国内自給率アップを目指した取り組みなど、年間を通して子育て世代30～40代の参加が多く、これからも子育て世代組合員に「使い勝手のいい」生協でありたいと思います。



市民生活協同組合ならコープ 金光 結香さん・萬本 量美さん

ならコープは数多くの事業と組合員活動をおこなっています。支所と店舗が主催する組合員のつどいは、商品の学習を通して、組合員と組合員、組合員と職員が交流し情報交換する場です。より多くの組合員が参加できるよう様々な場で開催されています。2014年度は166会場4,086人が参加されました。また2015年安堵町にも移動店舗車が運行され、移動店舗2号車が5月11日からコープみなしを拠点に運行されました。これからは組合員のくらしに寄り添う活動を続けていきます。



核兵器のない平和な世界をめざして

2015年NPT再検討会議代表団活動報告

被爆70年の今年、5年に1度のNPT（核兵器不拡散条約）再検討会議が国連本部で開催されました（4/27～5/22）。4月24日～5月1日にニューヨークで全国の生協から91名の代表団が日本原水爆被害者団体協議会の48名の代表の方々とともに、被爆の実相を伝え、核兵器廃絶の願いを世界の人々に呼びかけてきました。

奈良県内の生協からは、奈良県生協連から村上泰三さん（奈良教育大学4回生）、ならコープから小比賀博美さんが全国の生協の仲間とともに、被爆者をサポートしながら被爆証言の活動や国連での原爆パネル展での説明、NGO主催の平和パレード、核兵器廃絶への具体的な道筋をつけるための要請活動に参加しました。



4/26 核兵器廃絶のためのNGO共同行動・平和パレード。全国の大学生協から参加した代表と一緒にパレード。



4/25 ニュージャージー補習校で子ども・保護者に被爆実相を証言



4/26 核兵器廃絶のためのNGO共同行動・平和パレード



4/26 松井広島市長が国連軍縮担当代表に署名を手渡した



4/27 国連本部ロビーでの原爆展「核兵器のない世界へ～ヒロシマ・ナガサキの願い」



4/27 被爆体験を聴くために来場した9歳のルイスくん



4/27 NPT再検討会議傍聴



4/28 雑誌サイエンスアメリカのインタビュー



4/29 国連メキシコ代表部への要請行動



4/29 リバーデール・カントリースクールでの被爆実相の証言

奈良県の生協から参加した2人のニューヨークでの活動報告

村上 泰三さん

現地での様々な活動の中でも、特に学校での証言活動は非常に印象深いです。

活動最終日のリバーデイルカントリースクールでの証言活動は、現地のアメリカ人の生徒たちが選択履修する、日本の文化について学ぶ授業の中で行いました。専門用語が多く、外国語で聞くには難しいであろう被爆体験。

(日本について学ぶ授業のため、オールジャパニーズでの証言でした) 被爆者の方の証言の中で、途中途中わかりづらい点について先生が掘り下げて生徒に説明することで、最初は「？」と顔をしかめる様子だった生徒達も、次第に理解を深めているようでした。

この様子を見る中で、私は被爆証言の場をコーディネートすることの難しさと重要性を強く感じました。被爆者の方々は、一瞬の出来事を鮮明に、リアルに覚えておられます。その話を聞くと、実際には体験したことのない私たちでも、臉にその情景を浮かべ、感情を迫体験し、悲しみや悲惨さを感じることが出来ます。しかしその反面、熱の入った証言であればあるほど、関心のない人たちには引かれてしまうだけで、うまく伝わりません。簡単でも場面を組み立て、その中で被爆者の生の声を伝えることで、聞く側と話す側とのギャップを解消し、伝えることができるのだと思います。

平和や環境に関する問題など、社会的課題に対する取り組みについて、「ダサイ」「恥ずかしい」と感じているであろう大学生たち、同世代の若者たちに対して、どのような場面づくりをし、どこに重きを置いて、どのように伝えていくことができるのかを、これからの活動の中で模索することができればと思います。



小比賀 博美さん

被爆者の方を初め、全国の生協や現地ボランティア、ニューヨークに住む人々など、たくさんの人と出会えた8日間でした。中でも、原爆パネル展で出会った男の子のことが一番心に残っています。9歳のアメリカ人の男の子は、友だちが誰も原爆を知らないことに気付き、原爆を知ってもらうための本を作ろうと考えています。原爆パネル展に来場し、被爆証言を聞きました。

男の子の素直な質問(黒こげの少年の写真に対し、この光景は一つだったの？それともたくさん？どれくらい痛かったの？熱かったの？)に被爆者は答え、お母さんは証言を書き留めながら難しいことばをわかりやすく説明していました。たった9歳の男の子の考えと、それを支えるお母さんの熱心さ。その大きなチャレンジに驚きました。私たちが帰国した後、男の子は小学校で原爆について発表しましたが、「みんなを怖がらせている」と校長先生からたった8分で止められてしまったそうです。ニュージャージー補習校で保護者が言った「子どもはアメリカの教育を受けている。今日は日本側からの話を聞かせることができ、うれしい」ということばも合わせて、アメリカと日本の原爆への考え方の違いを感じました。

また、そんなアメリカでたくさん証言活動ができたことの重要性と、場を設定してくれた現地ボランティアの力の大きさを実感しました。「話す人」と「聞きたい人」をつなげる、「普通の人」を「聞きたい人」に変えていく、そして、「聞いた人」が「語り継ぐ人」になれば、被爆者の思いが繋がると思います。



残念ながら、2015年NPT再検討会議では最終文書の合意はできませんでした。しかし、核兵器の人的影響への世論が広がり、「核兵器を2度と使用されないことを保証する唯一の方法は、それらを全面的に廃絶することでしかありえない」と表明したクルツ・オーストリア外相が発表した「核兵器の人道上的結末に関する共同声明」に159か国が賛同しました。

唯一の戦争被爆国である日本で核兵器廃絶の願いを一層広げることが大切です。奈良県生協連も引き続き、諸団体や被爆者と連帯して核兵器廃絶の世論を強めるために取り組んでいきます。

環境のページ

アースデー 2015 in なら

～つなげよう 広げよう アースデーの“わ”(輪・和・環)～

4月19日(日)、国営飛鳥歴史公園(石舞台)にて、ならコープ主催、奈良県生協連共催の「アースデー 2015 in なら」が開催され、42団体(内、行政8、環境保全団体11)が出展しました。「吉野共生プロジェクト」、「菜の花エコプロジェクト」や環境保全活動の取り組みの紹介パネル展示、地産地消の商品販売、フリーマーケット、体験コーナーなどがあり、観光客も含め約2000名が参加しました。

舞台では、飛鳥太鼓、ゆるキャラによる子どもたちとの体操、ダンスや音楽演奏の披露などもありました。奈良県生協連のブースでは、「奈良県医療福祉生協」による健康チェックが行われ、ブースは血圧測定、体脂肪測定など健康相談をされる方で賑わっていました。昨年度から奈良県生協連も進めている「健康チャレンジシート」による取り組みの呼びかけも行われました。

また、奈良公園登大路園地一帯では、コープ自然派奈良なども参加する「アースディ奈良2015」が開催され、多くの参加者で賑わっていました。



奈良県生協連ブースに出展する
奈良県医療福祉生協



国営飛鳥歴史公園の
アースデーの会場の様子

「クライメート・アクション・ナウ!」講演会開催

NPO法人サークルおてんとさん主催

(奈良県生協連 共催)

6月7日(日)やまと会議室(奈良市登大路町)にて講演会が開催され、NPOや生協、行政、大学関係者、技術者、市民など24名の方が参加されました。

第1部では「地球温暖化と私たちの暮らしへの影響」(講師:芝本章宏氏(奈良地方気象台 調査官))、第2部では「※COP21(パリ)での合意をめざして」(講師:田浦健朗氏(気候ネットワーク事務局長))の講演があり、データからみる温暖化の傾向や市民にできる温暖化防止活動、気候変動の国際交渉の現状や日本の政策の海外NGOの評価や求めるべき姿などについて、それぞれの講師からお話がありました。

その後、奈良県内の気象(特に豪雨)の変化についての質問や、自治体や市民への温暖化対策の働きかけ方についての質問や意見も出され、参加者と講師とでじっくりと意見交換がされました。

国内での電力自由化を2016年に控え、国際的な視野で市民が学び、意見を発信する必要があることを感じました。



質問に答える
芝本さん(左) 田浦さん(右)

※COP21:
気候変動枠組条約第21回締約国会議



クライメート・アクション・ナウ
講演会場の様子

クライメート・アクション・ナウ!とは

国内外の市民と連携し、2015年COP21パリ合意の成功をめざすキャンペーンです。歴史的な国際合意の成功に向けて、世界第5位の排出国である日本の役割は大きく、再生可能エネルギーを飛躍させ、省エネルギーを強化し、持続可能で衡平な社会に転換するチャンスでもあると認識し、気候を守るパリ合意のために、今こそ行動をおこそう!と全国のNPOや市民などに行動を呼びかけています。

おじゃましました ～生活クラブ生協の巻～

第9回 通常総代会

6月15日（月）梅雨の晴れ間、大和郡山城ホール「レセプションルーム」にて生活クラブ生活協同組合の第9回通常総代会に取材に行ってきました。



木田洋子副理事長および立石昭彦専務理事からの提案があり、総代との質疑応答が議案ごとにあり、議案ごとに採決がありました。

議題

- 第1号議案 2014年度活動報告承認の件
 - 第2号議案 2014年度決算報告及び剰余金処理案の件
 - 第3号議案 2015年度活動計画及び事業計画案承認の件
 - 第4号議案 2015年度役員報酬限度額承認の件
 - 第5号議案 次期役員選挙管理委員選任の件
 - 第6号議案 役員選出の件
 - 第7号議案 議案効力発生の件
- 継続増資に関する特別決議

新役員の紹介



大和郡山城ホール玄関前

通常総代会の大きな看板。
会場は地下のレセプションホール。
ベビーカーを押した赤ちゃん連れの総代さんも出席されていました。

出席状況（総代総数100名）

本人出席：46名
 書面議決：47名
 委任出席：5名 合計98名



採決の様子

増資や減資に関するお知らせの仕方や、人材の活用や組織づくり、運営体制の整備に関すること、組合員の声の吸い上げ方など、熱心で活発な意見が出されていました。

すべての議案が賛成多数で承認されました。

生協・行政協議会を開催

5月14日(木)
奈良県文化会館

5月14日、奈良県文化会館で2015年度第1回の生協・行政協議会を開催し、奈良県消費・生活安全課と生協連役員とが意見交換を行いました。奈良県からは姫野隆昭課長はじめ4名の方にご出席いただき、国の消費者基本計画見直しなど消費者行政の新しい動きの説明、奈良県食品衛生監視指導計画の紹介などがありました。生協連からの年度方針説明の後、くらしの諸問題について質問や意見が出され交流しました。とくに機能性表示食品についてのリスクコミュニケーションの必要性や、悪質業者をなくすための事業者指導、集団訴訟制度の周知など、消費者問題に関することが話題になりました。



なら消費者ねっと 第2回定期総会・法人設立総会

記念学習会「インターネット・スマートフォンのおとし穴」

消費者被害をなくし安心してらせる地域づくりをめざして県内の消費者、専門家、消費団体が参加するネットワーク「なら消費者ねっと」は5月30日奈良県文化会館で第2回定期総会を開催し、法人格を取得し「特定非営利活動法人なら消費者ねっと」となることを決議しました。

同日、法人の設立総会を開催し、会員51名及び関係者・消費者・生協組合員などあわせて64人参加しました。

来賓の奈良県消費・生活安全課の姫野隆昭課長から特定非営利活動法人としての活動への期待が述べられ、設立代表者の北條正崇弁護士が抱負を語りました。



第2回定期総会・法人設立総会



講師の(株)DeNA 西 雅彦さん

記念学習会「みーつけた！インターネット・スマートフォンのおとし穴」を(株)DeNAの西 雅彦さんを講師に開催しました。実際にスマートフォンを使って、個人情報への不用意な開示や流出などによる「犯罪トラブル」の危険性、お金や時間の使い方、セキュリティ対策など、しっかり考えてより良く行動するための知識や情報を、わかりやすく説明されました。法人化の手続きを終えて、特定非営利活動法人なら消費者ねっとが正式に発足するのは、9月以降となる見通しです。



楽しく実機体験

2015年6月5日

3.11 を忘れない。

みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

声なき在宅被災者の苦しみ

床も天井もぼろぼろ、畳は腐り、壁の隙間から風が吹き込む。4年を経たいまも、津波で壊れた家に我慢して住み続ける人たちがいます。「在宅被災者」と呼ばれていますが、復興庁発表の「避難者」にはカウントされず、生活実態もほとんど知られていません。

在宅被災者の支援団体「チーム王冠」の代表・伊藤健哉さんは、石巻エリアだけで約12,000世帯の在宅被災者がいると推定しています。

避難所に入れなかった、応急仮設住宅で体調を崩して自宅に戻ったなど在宅を選ばざるを得なかった理由は百人百様ですが、共通しているのは応急仮設住宅で避難生活をしている方に比べ、支援がきわめて薄いことです。

「お金はない。食料や生活物資の提供もない。家財道具は津波で持っていかれた。義援金が入るのは半年後。生活が苦しい上に、52万円の応急修理制度では水回りを直すだけで精いっぱいです」

チーム王冠が昨年石巻エリアで「家屋修繕状況調査」を実施したところ、経済的理由で修理ができずにいる、あるいは必要最低限の修理だけであきらめている、現状が明らかになりました。自治体等の支援制度を合わせれば約250万円（※）まで利用できるのですが、大規模半壊や全壊の家を修繕するには約1,000万円必要と言われており、経済的に余裕のない世帯や年金生活の高齢者にとっては到底無理な話でした。

2014年、災害対策基本法が改正され、在宅被災者支援が盛り込まれました。しかしそれは今後の災害に向けてのもの。「東日本大震災の在宅被災者は、町内会も無くなり、高齢化も進んで心身の不安を抱えているのに、いまだに放置されたままなんです」。

伊藤さんは「このままだと東日本大震災の在宅被災者は無かったことにされてしまうのではないかと不安を抱いています」。

「在宅被災者の問題を何とかしないといけないという声が全国からあがれば、国も動かざるを得ません」。そのためにも壊れた家に住み続けている人たちがいることを忘れないでほしい。その生活の大変さを理解してほしい、そう伊藤さんは訴えます。

※被災者支援法による加算支援金、住宅再建支援事業など（自治体によって違いあり）。

情報提供／みやぎ生協



2014年秋に撮影した在宅被災者の住まい。寝る場所は確保できているが風呂や天井などは修理できていない。

（写真提供：東日本大震災一般社団法人チーム王冠）



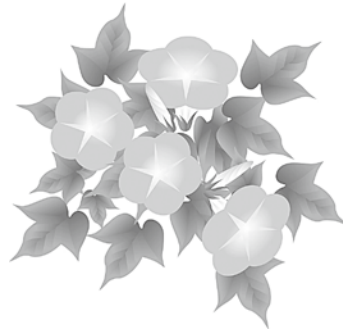
県連日誌

4月

- 7日 日本生協連第65回通常総会議案地区別検討会議
- 7日 関西地連2014年度第5回運営委員会
- 10日 NPT再検討会議代表派遣壮行会
- 14日 奈良県社会福祉協議会との懇談会
- 19日 アースデー 2015 in なら
- 22日 雪印企業倫理委員会消費者部会(関西)
- 27日 吉野共生プロジェクト
- 27日 消費者委員会「電力値上げ問題意見交換会」
- 30日 ピースアクションをすすめる会

5月

- 8日 2014年度監事監査
- 14日 生協・行政協議会
- 14日 2014年度 第7回理事会
- 21日 奈良県立大生協総会
- 21日 奈良教育大学生協総代会
- 22日 奈良女子大学生協総代会
- 25日 奈良県社会福祉協議会との懇談会
- 25日 吉野共生プロジェクト
- 28日 奈良高専生協総会
- 30日 「なら消費者ねっと」のNPO 法人設立総会・記念講演



6月

- 3日 生協組合員理事交流会実行委員会
- 5日 「2015『戦争も核兵器もない平和な世界を』市民の集い」、
「2015年NPT再検討会議生協代表団活動報告・交流会」
- 6日 奈良県医療福祉生協一斉地域訪問
- 7日 「クライメート・アクション・ナウ! 講演会『地球温暖化と私たちの暮らしへの影響』」
- 10日 ならコープ総代会
- 12日 日本生協連通常総会
- 13日 奈良県医療福祉生協総代会
- 15日 生活クラブ生協総代会
- 20日 奈良県生協連通常総会
- 20日 奈良県生協連第1回理事会
- 22日 奈良県社会福祉協議会との懇談会
- 22日 ピースアクションをすすめる会
- 27日 コープ自然派奈良総代会
- 29日 吉野共生プロジェクト
- 30日 近畿府県連協議会(滋賀)

みんなで健康チャレンジ!

奈良県生協連では、2014年9月から奈良県医療福祉生協がめざす健康づくりの実践の取り組みとして「健康チャレンジ」に取り組んでいます。ウォーキングや歯みがきなどの8コースから選択して4週間チャレンジするものです。健康づくりのきっかけになることを願って、2016年2月29日まで、年間を通してチャレンジできます。さあ、「いつでも健康チャレンジ」に参加して、みんなで健康づくりをすすめてみましょう! 詳細は、奈良県生協連事務局まで。

編集後記

北に大極殿、南に朱雀門、広々とした平城宮跡のながめ。朝の近鉄電車はこのごろ海外とくにアジアからの観光客で満員です。こうして日本の文化や風景を素敵と感じてもらえる人たちと、きっかけさえあればすぐに仲良くなれそう。友好と平和はすぐ手の届くところにあるはずです。(由)

最近の雨の降り方は過激。昨年福知山に災害ボランティアに行つたことを思い出します。災害が少ないことを祈ります。気候変動問題も平和問題も国際的に重要な年。いつまでも市民が平和で暮らせませうようにひたすら祈ります。(順)

矢田寺に紫陽花を見に出かけました。梅雨空に咲く何種類もの紫陽花が今を盛りにきれいに咲いていました。(佳)

昨年から預かっていた胡蝶蘭が、県連の事務所まで元気に育ち花が咲きました。その花言葉の「幸福が飛んでくる」ように平和な世界になることを願っています。(和)